

## 令和7年度 千歳市市民評価会議議事録

会議名	市民評価会議（第6回）		
日時	令和7年6月25日（水）14：00～17：00	場所	市役所本庁舎2階庁議室
出席者	市民評価委員7名、アドバイザー1名、事務局3名		

評価対象 施策	(1) 支笏湖チップの資源保護と増殖 (2) 支笏湖チップのブランド化 (3) 治水の推進 (4) 河川環境の整備 (5) 千歳市公設地方卸売市場による食品の安定供給 (6) 子育て支援や児童の健全育成の拠点の充実
会議概要	6施策について、第3回及び第4回市民評価会議におけるヒアリング内容を踏まえ、評価のまとめを行った。 今後の作業としては、本会議において抽出された評価結果を、事務局が報告書（案）として取りまとめ、第7回市民評価会議に諮ることとした。

### ヒアリング・評価内容

<p><b>(1) 支笏湖チップの資源保護と増殖</b></p> <p>・評価結果「維持」</p> <p>【委員B】 委員の質問「支笏湖漁業組合として運営ができれば、市としての事業内容は縮小するか」という旨の質問に対し、「縮小は考えていない」と回答されているが、違う方向に捉えていないかを懸念している。質問の意図としては、漁業組合と市の双方で役割分担することにより、市で受け持つ業務部分が縮小するのではないか、という意図ではないか。</p> <p>【委員F】 もう一つの施策「チップのブランド化」は市が注力すべき取り組みで、本施策「自然保護と増殖」は漁業組合に主体性を持たせていき、最終的には自立するのが理想と考える。</p> <p>【委員A】 市の事業、漁業組合の事業がそれぞれどのように切り分けられているか、説明の中で明確化されているとわかりやすい。</p> <p>【委員B】 本会議内の意見として、事業縮小を望んでいるわけではない。市の事業内容の縮小イコール事業規模の縮小ではないことに注意してほしい。専門性が高く市が直営できないため、漁業組合にアウトソースしているのが現状ではないか。本来は市が直接事業実施するもの、という点は明確にしたうえで本施策を整理し、市民に伝えていってほしい。</p> <p>【アドバイザー】 本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。 各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、</p>
--

・支笏湖チップの保護と増殖については、研究機関との連携による過去のデータの分析と経験を踏まえ、安定的な資源数を確保するための適切な放流数および釣獲数を見出していることが評価できる。

・支笏湖チップの資源管理について、多様な機関で構成される支笏湖ヒメマス釣魚対策協議会と支笏湖漁業協同組合と連携した監視業務により、適正に行われていることが評価できる。

一方で、「意見」としては

・支笏湖チップは、千歳市の代表的な水産資源であり、観光資源でもあるため、引き続き、支笏湖漁業組合や各研究機関と連携し資源の安定供給に取り組んでほしい。

・本施策は、千歳市が主体的に取り組んできた過去の歴史はあるが、支笏湖漁業協同組合の更なる自立化に向けた取り組みを期待したい。

・千歳市と支笏湖漁業協同組合の役割を整理するとともに、千歳市が本施策を推進することの意義を市民に理解してもらう必要がある。

・本施策は、観光や商業、地域振興など他の施策につながる施策であるため、他部署との連携を含め、一体的な事業展開を期待したい。

【委員A】

「維持」とすることに関しては、異論はないということによりか。

- 異議なし -

## (2) 支笏湖チップのブランド化

・評価結果「維持」

【委員B】

増殖しすぎると尾腐れが懸念されるため今の漁獲量が飽和状態という説明もあり、事業拡大するのが難しい。

【委員E】

資金の投入、積極的なPR等によりブランド化を進めても、多くを流通させることができない。また、そもそも取れるかもわからない資源なので、ブランド化を推進するのであれば希少性を高めていくしかないのではないかと。他の自治体においても特産品はふるさと納税の返礼品としてPRしているところは多いが、チップではできないものか。

【アドバイザー】

従来の加工品・商品開発といった「ブランド化」も推進していくとして、希少性を売るという「ブランド化」も本施策への意見として適すると思う。

【委員C】

返礼品として支笏湖チップ自体を提供するのではなく、体験型のような形で提供できるのではないかと。支笏湖の温泉旅館、チップ試食、カヌー体験等のワンパッケージ化や、漁業組合の一日体験といった子ども向けの学習体験など、様々考えられる。

【アドバイザー】

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

・支笏湖チップのブランド化に向け、各種イベントへの出店・啓発や市民との協働による商品開発などを精力的に行っていることは評価できる。

・支笏湖チップが地域団体商標に登録され、商業振興や新たな地域文化の醸成に寄与していることは評価できる。

- ・限られた漁獲量であり、また漁獲量が安定しない水産資源であるという困難な状況の中でも、支笏湖漁業協同組合等と連携し、販路拡大などを行ってきたことは評価できる。
- 一方で、「意見」としては
- ・支笏湖チップは、その資源量や流通などの問題により、まだ市民にとっては身近さを感じられる資源ではない。市外への情報発信も大切だが、市民の理解を高めるような取組みを期待したい。
  - ・支笏湖チップは釣獲数が安定しないことから、原材料が不足した場合でもブランド化が停滞しないような商品の開発とアンテナショップや通信販売網の充実を期待したい。
  - ・支笏湖チップの資源量が限られている中、加工商品などの量の増産は困難なことから、他部署や観光産業等と連携し、「希少性」をブランド戦略に位置づけるなど施策の推進方法について検討をして欲しい。
- 例) ふるさと納税における「体験型返礼品」として位置づける等

**【委員A】**

- 「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。
- 異議なし -

**(3) 治水の推進**

**・評価結果「維持」**

**【アドバイザー】**

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・千歳川流域は、特定都市河川に指定され千歳川水害対策協議会を設置し、千歳川流域水害対策計画を策定するなど先進的な取組みを行っていることは評価できる。
- ・千歳川流域に住む市民の安心・安全のため、国の「千歳川河川整備計画」を着実に推進してきたことが評価できる。
- ・指標達成に至らなかった浚渫延長について、理由が予算を理由にしているが、財源を確保し、次年度より目標達成に向けて予算額を増やしているところは評価できた。浚渫の目標達成率を回復されるために、機動的に予算増額措置をしている点は評価できた。より効率的な浚渫箇所を選定と着実は実施を期待する。

一方で、「意見」としては

- ・本施策については、水害等の危険性から市民の生活を守る取り組みであり、その意義や効果を広く市民に知ってもらうことが必要である。
- ・普通河川の浚渫延長については目標達成に遅れがみられるが、昨今の気象状況の変化や産業発展などによる社会変化などを踏まえ、適切な施策の推進に努めてほしい。
- ・治水の推進については、国の事業が多いため、国の動向によって左右されることが多いと感じる。事業の安定的な推進に向け、引き続き関係各所との調整や協議、要望活動等を行ってほしい。
- ・本施策は、ハード面の取り組みが目立つが、千歳市では市民協働のまちづくりを推進しているため、市民がどの様に治水に関与できるのか検討してほしい。

**【委員A】**

- 「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。
- 異議なし -

**(4) 河川環境の整備**

・評価結果「維持」

【委員 B】

水辺環境のソフト事業の創出という点においては、国土交通省において 10 年以上前から注力しており、国補助や規制緩和などを行う枠組みがあるが、ヒアリングや質問の回答において活用事例を確認できず、国と比べると当市は積極的にソフト事業を展開していないように見える。当施策にはソフト事業の指標がなく数的には読み取れないが、評価表の「目指すこと」の達成に対し遅れが生じているように見えてしまう。水辺空間の創出を目指すのであれば、ソフト事業の推進も必要であると考え、ソフト事業の担当課が商業や観光部門など本施策所管課と異なるということであれば、庁内で連携の上、取組んでほしい。

【委員 A】

ハード面の取り組みはヒアリング時の説明を踏まえ一定程度成果を上げていると評価しているが、整備をしたことによる効果を表す指標があっても良い。

【アドバイザー】

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・千歳川河川敷地整備事業によるベンチや照明灯の設置については、適切に整備が進められ、市民の憩いの場を提供する取り組みが行われていることは評価できる。
- ・千歳川の遊歩道の連続性の確保に向けた国への要望活動や、「千歳市かわまちづくり計画」の登録に向けて準備を進め、より一層の河川敷地整備を展開しようと努力していることが評価できる。

一方で、「意見」としては

- ・河川の特徴や橋梁の構造などから、遊歩道の連続性の確保は大変難しいことが把握できた。実現に向けては多くの関係他課や機関との調整が必要なものであり、庁内外の関係部局が一体となって計画的に施策を推進してほしい。
- ・市内の中央を流れる千歳川沿いに市民の憩いの場があることは重要であるが、市民のニーズを踏まえた水辺に親しめる空間の整備や歩行者の利便性と安全性の確保に向けた取り組みを行ってほしい。
- ・本施策は、ハード面の取り組みが目立ち、成果指標も休憩施設やベンチ、照明灯の設置数となっている。市民の利用実態や満足度など、整備をしたことによる効果を評価するよう検討してほしい。
- ・千歳市では市民協働のまちづくりを推進しているため、市民と一体となった河川環境の整備と商工、観光等の各種事業と連携した施策の展開を期待したい。

【委員 A】

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

- 異議なし -

( 5 ) 千歳市公設地方卸売市場による食品の安定供給

・評価結果「維持」

【委員 F】

実際に市場まつりに参加したが、農業まつりも同時に開催しており来場者は多かったが、農産物・水産物が安く売られている程度で、千歳に市場がある、というのは分かるが、来場者に市場の意義が伝わるような取り組みを行っているようには感じ取れなかった。出前講座の実施

回数を増やすという話もあったが、出前講座は求めに応じて開催するものなので、広く意義を周知する手法とは言えない。

【委員 B】

B to B の施設だと思うので、普段利用しない市民には意義が見えにくいかもしれないが、意義の周知方法は工夫してほしい。

【委員 E】

質問の回答に「本市場は流通拠点としての役割を担い続けていくものと評価されている」とあるが、本当に必要であれば施設整備についても根本的な検討があってもいいのではないかと。ごまかしながら使っているのが透けて見えてしまう。

【委員 B】

「千歳の市場」というブランドが作れるかが重要に思うが、苫小牧から札幌・小樽にかけての物流網は既に発達しており、これから存在感を出すのは難しい。札幌にも空港はあり、わざわざ千歳の市場を経由する理由が立たないのではないかと。しかし、市内業者の一定の利用や、決済代行業務を担う関係上、必要との判断となったのではないかと。

【委員 A】

そのような施設に多額の資金を投じて施設維持を図ることに対し、市民理解は深まりづらいのではないかと。

【委員 A】

「施策の目指すこと」、「取組の方向性」、「指標」において、目線が生産者なのか消費者なのかははっきりしない。市場が存在しなければ、市民に対し生鮮食品の安定供給ができない、というわけではないと思うので、一貫して生産者に寄り添うような見せ方にした方が、市民理解が深まるように感じる。

【アドバイザー】

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・千歳市公設地方卸売市場の存在は、千歳市の産業および市民生活を支える基盤であり、その取り組みは評価できる。
- ・千歳市場公社が担う代金決済機能は、農家等の生産者が安心して働ける環境と市場を支える重要な機能として評価できる。
- ・一般開放事業や市場見学などを通じ、地域の良質な農産物等を PR するとともに、市民に市場が持つ役割を理解する取組みは評価できる。

一方で、「意見」としては

- ・平成 28 年に市場の存廃を含めた庁内検討を行うために設置した「千歳市公設地方卸売市場庁内検討会議」において千歳指標を流通拠点として存続することが決定されているが、市場を持続可能な資源としていくためには民間資本の導入による「公設民営化」や加工や観光を組み合わせた「6 次産業化」の拠点にするなど将来に向けての更なる検討を期待したい。
- ・地域の産業を守る市場の役割を維持するためには、HACCP への対応を強化することや今後発生する大規模設備更新などへの対応を検討してほしい。
- ・本施策では市民参加のイベント等を行い、PR に努めているが、市場が存在することの意義が市民に伝わっていないように感じる。本施策は生産者なくして実現できないものであり、もっと生産者の目線で展開されることを重視してほしい。

【委員 A】

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

- 異議なし -

(6) 子育て支援や児童の健全育成の拠点の充実

・評価結果「維持」

【アドバイザー】

本施策について、市民評価会議における方向性は「維持」としている。

各委員からいただいた評価理由・意見・質問シートにおいて、方向性を「維持」とする理由としては、

- ・本施策は子育て世帯に対する支援が幅広く展開されており、女性活躍社会や男性の育児を支える重要なものである。
- ・子育て支援センターの日曜日会館は、日曜日勤務の市民など多様な市民ニーズへの対応が図られている事業であり評価できる。
- ・転出入が多く、核家族割合の高い千歳市において、子育てコンシェルジュの配置など、きめ細かく対応するための体制整備を行っていることは評価できる
- ・子育て世代のニーズを踏まえ、ホームページや SNS を通じて積極的に情報発信を行っていることは評価できる。

一方で、「意見」としては

- ・児童館等への来館や訪問による支援のみならず、様々なコミュニケーションツールを用いて円滑な支援を行うなど、引き続き子育てと児童の健全育成の役割を担ってほしい。
- ・既に市民協働事業による施策の展開が図られているが、子どもたちの多様なニーズに対し、市民全体で支援することができるよう、市民を巻き込んだ施策の展開を期待したい。
- ・本施策が目指すことは子育て拠点や児童の居場所や活動の場の充実であるため、指標はアウトプット(成果量)が用いられているが、本施策を展開したことによる成果や効果、市民ニーズに対する対応を捉えることのできる指標の導入を検討してほしい。
- ・学童クラブの利用者の減少への対策として、時代にあわせた子どもの遊びの環境を整備するなど、子どもや親のニーズを踏まえた取り組みを検討してほしい。

【委員 A】

「維持」とすることに関しては、異論はないということによいか。

- 異議なし -

評価全般に関する意見について

【委員 A】

一般的に、指標の設定根拠は説明してほしい。根拠があり、この指標があり、それに対してどのような事業展開をしているかが見やすいと、意思をもって推進しているというのが市民にも伝わる。今年度は一貫性が見られない施策や事務事業が多かった。

【委員 E】

事務事業評価というものの自体が、職員にとってルーティーン化しているのではないかと感じる。何年かに 1 度くらいは職員に対し、事務事業評価を実施する意図を伝えるための説明会があってもいいのではないかと感じる。

【アドバイザー】

外郭団体に補助金を交付し事業を展開するような施策の場合は、市としての方向性や関与が見えにくいいため、分かりやすく示すべきと感じる。

【委員 A】

各施策に対する意見についてのフィードバックは次回会議（翌年 2 月頃実施予定）で確認しているが、評価全般に関する意見については行っていたか。

**【事務局】**

これまでは実施しておらず、全庁的に周知を行い次年度以降の施策推進の参考にしてもらうように活用していた。評価全般の意見に対する改善状況も、次回会議の際に回答させることは可能である。